



—第6号—

地域・だいがく連携通信

—神戸大学地域連携ニュース—

神戸大学地域連携推進室
〒657-8501
神戸市灘区六甲台町1-1
TEL : 078-803-5029
FAX : 078-803-5049
E-mail : ksui-chiiki@office.kobe-u.ac.jp

平成21年度地域連携活動発表会を開催

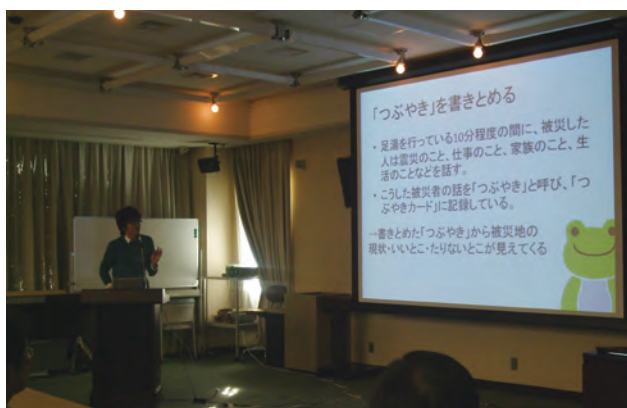
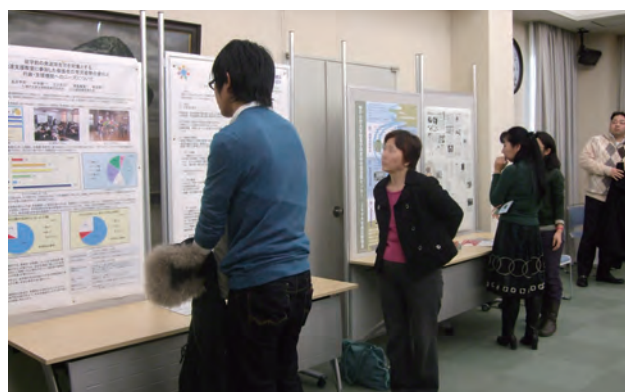


2010年1月18日、神戸大学瀧川記念学術交流会館大会議室で地域連携活動発表会が開催されました。この発表会は神戸大学の地域連携活動を学内外に発表し、各方面からのご意見を頂くことを目的に、2005年から毎年一回開催されています。

第一部では、『青野原俘虜収容所展 in Tokyo 2009』の報告や、この展示会開催による広報的な価値についての解説と、科学者と一般市民が科学について語り合う「サイエンスカフェ」等の取組みが報告されました。

今年度の公募型地域連携事業では、教職員から附属図書館と都市安全研究センターに、学生団体からは SESCO と中越・KOBE 足湯隊の方々にご報告いただきました。内容は、阪神・淡路大震災の資料活用、災害救援、社会的な起業など多岐にわたるものでした。

人文学研究科、農学研究科、保健学研究科の各地域連携センターはポスターによる活動報告を行いました。休憩時には、各センターの担当者が興味を持った人に説明する姿が見られました。



第二部の、学内教員をパネラーとしたパネルディスカッションでは、「地域連携活動の広がり」をテーマに、地域連携の継続性などについて意見が交わされました。

まず、パネラー個々の地域連携活動の報告があり、その後、協定締結により現れた課題が話し合われました。地域の中で連携に必要なパートナーの存在や人材育成、大学が地域に入って行く上で、地域との信頼関係をどのように作っていくか、など、フロアを含めた活発な意見交換が行われました。

この発表会の様子は、『神戸大学地域連携活動発表会報告書』（2010年3月発行）にまとめられています。報告書をご希望の方は地域連携推進室までお申し出ください。

(研究推進課 研究・地域交流企画係 078-803-5029)

『青野原俘虜収容所展 in Tokyo 2009』と東京オフィス

神戸大学東京オフィス・コーディネーター
植村達男

昨年11月、神戸大学、兵庫県小野市、オーストリア大使館が主催するイベント「青野原俘虜収容所展 in Tokyo 2009」が、東京で開催された。このイベントは「講演会・再現演奏会」（11月7日、ドイツ文化会館）、「展示会」（11/12日-21日、オーストリア大使館）から構成。このイベントについて、神戸大学東京オフィスに相談が持ち込まれたのは、昨年7月のことである。大津留厚教授が上京、神戸大学の同窓会施設（東京凌霜クラブ）内に設置されている神戸大学東京オフィスで面談、プロジェクトの概要をお聞きして、全面的協力をお約束した。その後、千葉県習志野市（この地にも俘虜収容所があった）の音楽サークル「町の音楽好きネットワーク」の代表者戸田志香氏（声楽家）との打ち合わせ（8月、於高田馬場）、毎日・日本経済新聞両社の記者インタビュー（8月、東京凌霜クラブ）がある。この時点では、まだ詳細なスケジュール（場所、日程）が決定していなかったため、チラシもできていない。チラシが送られてきたのは9月になってからであった。同じく9月には、大津留教授、奥村地域連携推進室長、大村敬通小野市立好古館長等とともにオーストリア大使館を訪問した。ミハエル・ハイダー文化担当参事官にご挨拶するとともに、展示会場の下見を行う。チラシが出来上がってからは、東京凌霜クラブで掌握している首都圏在勤・在任の神戸大学同窓生約1000人に対して電子メールによる配信を行う。同時にチラシそのものをメール便（他の発信資料に同封するケースが殆ど）で送った。

9月末頃、「講演会・再現演奏会」の参加申込者数が少ないことが判明、ショックを受ける。寂しい会場では、講演者や演奏者に申し訳ない。神戸大学の恥さらしにもなりかねない。そこで、東京凌霜クラブから電子メールの再配信を行い、また卒業生以外にも広報活動を広げた。東京オフィスがある帝劇ビル内にある喫茶店の店頭、新規開店の歯科医院待合室にチラシを置いて貰うといった身近なところから始めた。近くのレストラン「とかちの」は、神戸大学ゆかりの店（経営者の奥様が国際協力研究科の修了生）でもあり、同様のお願いをする。また、神戸大学への入学者でコンスタントな実績がある都立青山高校の進路指導室を訪問、大学の各種広報資料とあわせて、前記チラシもお届けした。青山高校は大津留教授の母校でもある。青野原俘虜収容所というテーマは、第一次世界大戦に関係するので、“世界史の教材”にもなりうる。そう考えて、他の近隣の高校も回りたかったが、経費（交通費）と時間の関係で、果たせなかった。他にも渋谷の「たばこと塩の博物館」で開催中の「やすらぎのオーストリア」展に出向き、学芸員に依頼して、館内にチラシをおいて貰うことに成功した。知人の弁護士事

務所（中央区）、定期的に通っているクリニック（新宿区）、なじみの喫茶店（中央区）もチラシを置いてくれた。日本フィランソロピー協会（千代田区）、日本エッセイストクラブ（同）、専門図書館協議会事務局等の協力も得た。講演会・演奏会会場であるドイツ文化会館（港区）に近い虎屋文庫（和菓子の博物館）、港区役所赤坂支所にもチラシを置いて貰うことに成功。また、オーストリア大使館に近い明るい感じの喫茶店2軒も、食事に行ったついでにお願いした。

10月9日付日本経済新聞（文化欄）に始まり、マスコミの報道が始まる。続いて、毎日新聞（東京版、10/7付）、朝日新聞（東京版、11/5付）、読売新聞（都民版、11/7付）と東京地区では4件の記事が流れる。新聞記事をよんでのイベントに参加者は少なかったわけであるが、一方、“神戸大学の広報”という観点からは、東京地方版での告知記事は多大の貢献があったといえよう。以上の4件の記事のうち、日経と毎日ではあらかじめ行った記者インタビューの成果。朝日は大学広報室を通じての根回しの結果であろう。読売は、まったくの偶然が作用した。読売本社編集局地方部次長が神戸高校の卒業生で、たまたま10月に開催された神戸高校同窓会で私と席が近く、直接お願いして掲載に至ったもの。ただし、掲載日が11月7日（「講演会・再現演奏会」当日）と、間際であったのが惜まれる。

最後に、今回のイベントで思いがけない出来事があった。それは「講演会・再現演奏会」と「展示会」双方に來られた中村摩利子さん（東京・杉並区）から伺ったエピソード。というのは、中村さんの父上が旧制姫路中学（現姫路西高校）時代、同級生とともに姫路にあった収容所を訪ね俘虜と交流したということである。これが契機となり、その中学生すなわち興地実英（おきち・じつえい、1902 - 1947）氏は金沢の第四高等学校（現金沢大学）の文乙（ドイツ語履修）に進む。更に東京帝国大学文学部でドイツ語を学び、旧制大阪高等学校（現大阪大学）、ついで旧制浦和高等学校（現埼玉大学）でドイツ語教師をつとめる。俘虜との交流が、興地氏の生涯の仕事に繋がった訳である。中村さんからは、後日『興地実英遺稿集』、『興地実英遺稿集 続編』の2冊の本を頂戴した。米田一彦神戸大学教授（後に名誉教授、英文学）も、『興地実英遺稿集 続編』の執筆者の一人。大阪高校時代の「興地先生のことなど」のタイトルで、恩師を語っている。なお、中村摩利子さんからの通知で、興地先生の教え子7～8人が、今回のイベントに参加していた。興地先生の人望が偲ばれる。

「あーち」、神戸市市民福祉奨励賞を受賞



2009年9月16日、神戸市文化センター大ホールで開催された神戸市社会福祉大会において、人間発達環境学研究科ヒューマン・コミュニティ創成研究センター「のびやかスペース あーち」が神戸市の市民福祉奨励賞を受賞しました。

「あーち」は旧灘区役所庁舎跡地2階に、2005年9月子育て支援をきっかけとした共生のまちづくりを目指す施設としてオープンし、年間利用者数は25,000人を超えています。「大学と行政が連携した市内で最初の大規模な子育て支援事業であり、各地からの視察も多く注目されており、同様の事業が他の大学へも拡大していくなか、今後ますますの活躍が期待される。」として今回の受賞が決定しました。



各センターの活動報告

2010年1月23日(土)、ラッセホール(中央区)で、第5回地域連携センター報告会が、神戸市社会福祉協議会と保健学研究科との共催で開催されました。

午前の地域連携活動報告では、発達障害児支援教室「ぽっとらっく」や極低出生体重児支援事業「YOYO」クラブの活動に加え、「高次脳機能障害勉強会」を通じたケアスタッフの支援や来日インドネシア人看護師へのアンケート報告などがおこなわれました。

午後からは、阪神・淡路大震災から15年ということで、2006年5月27日におこったジャワ島中部地震への支援事業、「子どもの家」事業についてのシンポジウムがおこなわれました。「子どもの家」は、2007年12月に被害の大きかったバントゥール地区に建設された小児保健活動の拠点です。その資金は、神戸の子どもたちが街頭で集めた募金。「被災地の子どもたち支援に」と、神戸市社会福祉協議会から委託されたものでし

～保健学研究科地域連携センター～

た。ここでは、震災の経験を生かし、神戸大学・ガジャマダ大学が連携しながら、大規模災害後の中・長期的支援のモデル事業が展開されたのです。地域の経験を海外で生かす、保健学研究科地域連携センターの広がりを感じさせる報告会でした。

～学生地域アクションプランより～

全国足湯ボランティア交流会開催
(中越・KOBЕ 足湯隊)

2009年10月31日、11月1日の二日間にわたって、全国足湯ボランティア交流会が神戸大学で開催されました。東北から神戸まで6団体が参加し、講演会や足湯に関わる社会人、学生によるパネルディスカッションが行われました。足湯の活動の中での「つぶやき」を拾っていくことの意味、また、足湯活動の課題などが話し合われました。

足湯の講習会も行われ、参加者同士で足湯をしながら、ばらつきのあった方法の統一化を図り、足湯の作法などを学びました。



被災地での足湯の様子

活動報告

2009年

- 4月 27日 神戸大学・灘区 まちづくりチャレンジ事業助成募集(～5月22日)
- 5月 1日 地域連携事業、学生地域アクションプラン募集(～5月22日)
- 5月 19日 神戸大学が加西市と連携協定を締結
- 6月 26日 国際文化学研究科が南あわじ市と連携協定を締結
- 7月 11日 第3回地域連携フォーラム開催(農学研究科地域連携センター)
- 7月 12日 『社会起業支援サミット2009 in 兵庫』開催(学生地域アクションプラン)
- 7月 17日 人間発達環境学研究科が兵庫県立美術館と相互協力協定を締結
- 7月 18日 セミナー『NICUから地域へ』開催(保健学研究科地域連携センター)
- 7月 30日 経済学研究科が兵庫県多可町と連携協定を締結
- 9月 10日 農学研究科で第5回地域連携研究会『石垣棚田の保全』開催
- 9月 16日 「あーち」が神戸市民福祉奨励賞を受賞
- 10月 14日 食資源教育研究センターで小学生が柿の収穫を体験
- 10月 31日 小野市にて地域展開催(～12月13日)
- 11月 1日 神戸大学都市安全研究センター発“みんなで考えよう 安全・安心で快適なまちづくり”開催(地域連携事業)
- 11月 7日 『第一次大戦期 青野原俘虜収容所展 in Tokyo 2009 講演会・再現演奏会』開催
- 11月 12日 『第一次大戦期 青野原俘虜収容所展 in Tokyo 2009』(～11月21日)
- 11月 28日 『資料が語る 阪神・淡路大震災の記憶と現在(いま)』講演会開催(地域連携事業)
- 12月 8日 食資源教育研究センターで小学生がキャベツの収穫を体験
- 12月 21日 人文学研究科地域連携センターの協力による『西国街道モニュメント』完成

2010年

- 1月 18日 平成21年度地域連携活動発表会の開催
- 1月 23日 第5回地域連携センター報告会開催(保健学研究科地域連携センター)
- 1月 31日 歴史文化をめぐる地域連携協議会開催(人文学研究科地域連携センター)
- 3月 2日 都市安全研究センターがセミナー『農村でどう生きるか働くか』を開催(地域連携事業)

編集後記

気が付けば冬も終わりあっという間に新しい季節を迎えようとしています。神戸大学の地域連携も手探り状態で進んできましたが、だんだん、続けていく上での課題などがはっきりしてきたように感じられます。同時に、新しい地域連携の芽も少しずつ育っていつているのではないのでしょうか。大輪と行かないまでも、小さな花がつぼみを付けていくことができれば、と思っています。